

インターバンクの声（2015年12月22日）

大手外資系銀行のディーラーによれば、昨夜のロンドン、ニューヨーク市場の流動性は普段の半分近くまで低下していたようだ。やはり米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げを確認して今年は終了と決め込んでしまった金融機関やファンドも多いのかも知れない。そうした最中でも、その流動性の低下が大きく影響しているのか、ドル円やユーロの相場にはそれなりの変化が見られている。スペインの総選挙で与党が過半数を確保出来ず、大手格付け会社からは期待されていた同国の格上げが難しくなったとの指摘もあったが、なぜかユーロは上昇している。バイトマン独連銀総裁が来年のユーロ圏の景気回復が加速する見込みだと発言したことに反応したのか、ニューヨーク市場の昼前までにアジア市場の終盤から100ポイント近く上昇している。ドル円の下げ同様、米国債利回りが先週の後半に比べて10ベース前後下げているのが主要因だったのかも知れない。ドル円もユーロも想定されたレンジの範囲を逸脱して行くような変化は考えにくいだが、流動性の低さには要注意だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。